

紀伊地域の幼稚園の歩みと展望

—和歌山市について—

はじめに

和歌山県に幼稚園の創設されたのは明治二十年で県都和歌山市においてである。和歌山市は県の西北隅にあって大阪市とは特急電車で約一時間の近さにあるところから、教育文化の面においても大阪を通じて中央の影響を早く受け入れ、県下全域に流れて行く元になったと思われる。

	公立	私立
和歌山市	15	22
海草郡	15	—
那賀郡	—	1
伊都郡	21	3
有田郡	1	7
日高郡	2	9
西牟婁郡	11	10
東牟婁郡	6	7
計	71	59

上の表は昭和四十一年五月現在の所在地別幼稚園数を示すも限られた期間内に県下全般にわたる資料

を集めることができなかつたので、先ず和歌山市について、教育内容中心に述べることとする。

明治時代

谷口緑



和歌山市教育一班（昭和五年和歌山市役所発行）によると、明治五年新学制発布後翌六年から八年までに十一の小学校が開設せられると共に七つの幼稚小学を起す企てがあつたが小学校増設の方が急を要する事情となつてこの計画は実現に到らずその後明治十五年に設置せられた女子高等小学校の附属として明治二十年六月幼稚園が創設せられたのである。

和歌山史要（大正四年初版和歌山市発行）には、「幼稚園は明

治二十年六月市立和歌山幼稚園（始め九番丁にあり和歌山女子高等小学校附属幼稚園と称せしが、同三十六年四月独立して七番丁に移転し、和歌山幼稚園と改称、同二十四年二月再び九番丁に移る）を嚆矢とし、ついで区立始成幼稚園（明治二十二年十月創設、本町五丁目始成小学校内）市立新町幼稚園（明治四十三年六月創設、始教寄屋町……）設置されしが……」と記されていて、明治年代に三つの公立幼稚園が開設されている。

創設の頃の事情と、当時の保育の状態について、和歌山幼稚園五十年史（昭和十二年同園発行）には次のように記されている。

「当園は明治二十年六月一日の創立である。当時の市長長屋喜弥太氏は非常に教育に熱心な人で折々女子高等小学校を参觀せられたが、時の校長瀧本みつゑ女史に幼稚園設立を奨められ、氏は東京女子師範学校在学中小西信八氏に保育学を研究せられた経験があり相談の結果創立を決定したのである。然し費用がないので土地の熱心な人々の寄附を仰ぎ金五百円を投じて一室を設け机、腰掛、保育材料等二十人分を大阪の蔡倫社より購入しここに六月一日創立の声を挙げたのであった。当時の保育としてはフレーベルの恩物を用ひ学校門内の広場で保姆一人が子供の喜ぶ鬼ごっこ、かくれんぼなどした。又修身庶物話もありお昼すぎまで保育の任にあたり又行届かない時は高等小学校の卒業生に助手をさせたの



明治三十七年一月元旦職員園児一同（和歌山幼稚園五十年史より）

であった。始めは模範幼稚園と称し、和歌山市九番丁にあったが後女子高等小学校附属幼稚園と称しさざやかなものであった」明治三十七年一月撮影の和歌山幼稚園記念写真（前頁下段の写真参照）をかかげて当時をしのぶこととする。

尚、隣接の和歌ノ浦町には和歌ノ浦小学校の附設として、明治三十六年和歌ノ浦幼稚園が開設され後昭和八年和歌山市域拡張の結果中止となつている。

大正時代

前記和歌山史要増補版（昭和十四年三版）によると大正に入つて同六年始成幼稚園は和歌山幼稚園に合併せられ公立は二園となつた。

私立幼稚園は大正十二年にキリスト教の双葉幼稚園、同十四年に仏教の鷺ノ森幼稚園が開設されている。又大正十五年隣接の宮前村に村立幼児愛護所と称して開設せられた園があり、後（昭和九年）宮前幼稚園として市立になる（市域拡張の結果）。

当時の保育の状態について、大正八年保姆として和歌山幼稚園に着任され、後園園長として昭和二十年の閉園まで同園と共に歩んでこられた塙路玉枝先生の談話によると、園舎は古い武家屋敷の内部を板敷に改造したもので軒が深く、雨天の時などは大層暗かった。ふつう午前中はなから外遊びで、室内ではフレーベル形式による指導が行われ、たたみ紙、折紙など恩物中心で、結んで開いてや水鉄砲の歌はこの頃から使われていた。行事が大変さかんで三月と五月の節句、七夕、月見などには必ず園児一人一人にぬりのお膳を使って会食が行われた。正月には父兄等が集まつて餅つきが行われ小さい子ども用のきねを作つて園児たちにも経験させ、三月にはお遊び会といって広い室に縁台を並べて舞台を作り父兄を招いて園児の歌や遊戯を見せたということである。

私立幼稚園として和歌山市に初めて設立された双葉幼稚園（大正十二年）について、当初からの園長八木善三郎先生は次のように語つておられる。設立の前年、和歌山市の聖公会の教会に赴任された先生は、かねて大阪のヨハネス教会において明治二十二年頃ミス・ブール女史によって始められた育児院（現高槻市ヨハネス学園）の事業に興味を持たれ、幼児を通じて母親の教育をしたいと考えておられたので、和歌山市に着任後直ちにその実現を計られ幼稚園を開設された。初め園児は非常に少なかつたが開園と同時にミッショニ系の保姆専門教育を受けた先生によつて当時としては新しい保育方法が行われ、特にピアノ音楽を豊かに使つて毎日の遊びやしつけの指導が進められた。子どもたちの行動はそ

れによつて見ちがえるばかり軽快になつたということである。

昭和時代

イ 初期

公立は昭和に入つて市域拡張の結果市立となつた前記二園の他、昭和八年中ノ島幼稚園が中ノ島小学校に附設開園されて五園となり、私立は昭和二年吹上幼稚園と修徳高等女学校附設湊幼稚園の二園が開設された（前記和歌山史要増補版による）。

大正の終りから昭和の初めにかけて和歌山市の幼稚園も、全国的な自由教育思潮、幼稚園令制定、倉橋惣三先生の新しい教育理念の影響の波を受けて、研究活動がさかんになり保育の内容にいぢじるしい発展があつたようである。

昭和の初め保姆として和歌山、新町両園に在職された和田久仁子先生（現市立岡山幼稚園園長）その他の先生方の談話によると、当時の和歌山幼稚園園長中村楠雄先生は非常に研究熱心でよく各地を視察せられ、自ら勉強された結果をどしどしと実践に移された。

和歌山幼稚園でも一ヶ月に一度は研究会が行われ、市視学の視察や講評があり、若い見習保姆にも研究発表の機会が与えられ

て、苦しくもあつたが大変意欲を盛り立てられたという。特に觀察の研究が熱心で觀察箱、花壇作り等実物による指導がさかんであった。週案、日案を各自が立案して園長に提出、指導を受けることもこの頃から行われた。一日の保育の流れは、

九時から視診と出席調べ—集会（十五分程）—休憩—一斉活動（その日の最も重点的な活動）—外遊び—軽い一斉活動—昼食（生活指導）—外遊び—軽い一斉活動—帰宅（土曜日は午前中）であつて朝の集会では保姆が交替でお話を聞かせ、各組ではそのお話を元にしてその日の主な活動を導いて行つたといふ。

前記和歌山市教育一班の中に記されている新町幼稚園の保育方針からその一部を抜粋して見ると次のようであつて当時の和歌山市立幼稚園の保育の内容をうかがうことができる。

「幼稚園にては教科書なき為め一年中の保育題目を設け是に従ひて保育案を建て遊戯、唱歌、手技、談話、觀察、恩物、外遊等の項目中に題目を含み幼児の生活に靠近なる例に依りて知識を会得せしめ又數の観念、左右、東西などの幼児に相応したる常識を養ふ、昭和四年度保育案題目一週に一題目」

となつていてその題目を例示すると次のようである。

第一学期四月題目——1 家庭及び幼稚園 2 桜 3 菜の花紫雲英つづじ

同五月題目——1 天長節種子蒔き（粒蒔き） 2 端午の節
句及蝶（以下略）

同十一月題目——1

明治節及鳥類の巣 2 獣類及家畜類

3 人の家（各人種） 4 大工左官の働き（以下略）

以上のように現在の主題による活動の展開と内容的に余り変らないことが當時から行われていたようである。

昭和二年には、公私立幼稚園及び保育所連合の和歌山市保育会が生まれ、たびたび研究会を持って保育内容の向上につとめるところとなつた。これが発展して県下の幼稚園の研究会も二年に一度くらい和歌山幼稚園で行われたといふ。

和歌山幼稚園は昭和七年独立の新園舎を建築して移転したが、この園舎は戦災をまぬがれ、同園は戦争によって閉園するが、戦後市立岡山幼稚園がこの園舎を使って新しく開園することとなる。

口 戰時 下

戦時中は戦局展開の激しさを加えると共に、昭和十八年頃から相ついで閉園し、保育所として続いた園も一、二あった。

その中に幼稚園として昭和二十年七月九日和歌山市戦災の日まで保育を続けていた鷺ノ森幼稚園（大正十四年開設）主任島村愛

子先生のお話によると、戦時中の幼稚園では先生もこどもも防空頭布、非常袋を持って登園し、警報がでると直ちに整列して先生につきそわれ帰宅するという毎日であった。同園は市の繁華街に近く、七月九日夜の空襲ですべてを焼失したが、その夜先生は一度帰宅されてから警報によつて再び園にもどり重要書類をせおつて防空壕に入った。周囲が燃え始めたために附近の河まで逃げて河水の中に首までつかつて夜を明かされたが、ようやく命拾いをして園の焼け跡に立つた時は、創設以来二千余年の間に苦心して整えてきた施設設備のすべてがむざんに焼け落ち、給食皿の残がいなどまだくすぶつっているのを見ていいような感慨を持たれ、自分の家を失つたことより辛かつたと述懐されている。命をかけて守られた重要書類は水びたしとなつてほとんど復元できなかつたとのことである。

八 戰 後

戦後昭和二十一年から同二十四、五年までの間に、幼稚園は新制度下の学校として相ついで再開あるいは新発足し、昭和二十五年には公立三、私立六となつた。

その後は次第に増加の一途をたどり、四十年五月現在前掲のように公立十五、私立二十二となつて、合わせて県下幼稚園数の四

分の一近くを占めることとなつた。

戦後の幼稚園新発足当時のもようについて市立岡山幼稚園前園

長樋口正子先生他、当時の先生方は次のように語つておられる。

前記のよう岡山幼稚園は、戦時中昭和二十年に閉園した和歌山幼稚園の園舎を使って開園したのであるが、終戦後この園舎は一時市役所として統いて病院として使用されていたので、先ず床洗いから始まり、畠や注射針の捨て場となっていた砂場、プールを危険のないよう丹念に掃除して、昭和二十五年四月から園児をむかえた。備品といつても園児の机と椅子の他、黒板とオルガンが各室に一つずつあるだけで遊具は何もなく、二学期に入つてやつとぶらんこと滑り台が作られた。

その後の十年間は施設設備を整えること、教育内容の充実にただがむしゃらに突き進んだ。特に初めの三年間は基礎作りに懸命であつた。この間園長も職員もただこの一つの目的のために自分的生活もしばしば犠牲にして悔いなかつたという。その一つとして給食は開園以来の大方针として毎日行われたが、偏食の矯正と幼児食についての母親教育に大きな成果をあげ、その設備と共に県下の模範となり、開始以来無事故であるという。

教育内容の面では、昭和二十六年と二十七年にわたり同園で研究された教育課程がもととなつて最初の和歌山市立幼稚園の教

育課程が編まれ、その後は和歌山市立幼稚園全体の研究組織によつて研究、実践、改訂が行われている。

他の幼稚園も初めの十年は岡山幼稚園と同じである。焼け残つた民家や学校の一部、教会堂、急造の仮園舎などで、園児用の机、椅子のみから発足し、戦後の混沌の中、新しい教育制度にそつた教育内容の確立のために、認定講習や各種の講習会研究会に休む暇もなく明け暮れ、手探りの実践をつづけてこられたのである。

教育内容研究の組織は、昭和二年に始められた和歌山市保育会が、戦後は和歌山県公私立幼稚園連絡協議会の和歌山市部会として現在も残つてゐるが、連合の研修会はほとんどなくなつた。

現在公立幼稚園は、全国国公立幼稚園長会につながる和歌山市の組織として五つのブロックに分れ和歌山市はその一つである。各ブロックはそれぞれの地域に研究主題を持つて研修を続けていゝが、和歌山市の当面の計画は、幼稚園教育要領の改訂とともに現実のこととの姿を見つめて実践しながら、五才児一年保育のカリキュラム作製の資料を作ることと、指導要録のための評定尺度を作製することである。

私立幼稚園は日本私立幼稚園協会につながる和歌山県私立幼稚園協会があり（昭和二十五年から）、本年度からはこれを社団法

人として五ブロック、六部門に分かれそれぞれの計画を進めてい
る。和歌山市はその一ブロックで、研究部では本年度、これまで
の領域別の教育内容研究から一步前進して、総合性の問題を取り
上げ、研究態勢としても、県下唯一の保育科をもつ和歌山信愛女
子短大（昭和三十一年保育科設置）との協力によって堅実な歩み
を始めている。

このように現在公私立は別々の組織を持つて研修しているが、
必要に応じて相互の交流が行われている。

将来の展望

幼児教育に対する社会の認識が高まり、幼稚園の数が急速に増
え、就園する幼児の数が年々増えていることは喜ばしいが、問題
は量より質である。今後は教育内容を質的に充実向上させること
に力を注がなければならない。それは実践の場で、しっかりと足
を地につけた研究活動が行われて初めて正しい方向に着実に進ん
で行くものであるが、和歌山市の幼稚園の現在はたしかにこの堅
実な方向を志向していると思う。

今後は公立も私立も組織の力を生かし、関係の研究機関も十分
活用して、教育内容充実向上の歩みをより促進することが望まれ
る。

それは創設以来、戦前戦後を通じて幼稚園教育の発展のために
つくしてこられた先輩諸先生方の道を正しくひきつぎ、その労苦
に少しでも報いることであると思う。

尚、直接実践にあたる人々の努力を表り多いものとするため、
切実に望まれるのは、県、市の教育委員会に幼稚園専門の指導主
事をおかれることである。このことは和歌山市においてもすでに
待望久しいものなので、将来早期の実現を望みたい。

最後にこのさきやかな一文をまとめるに当って、貴重な資料を
提供していただいた方々と、御指導いただいた多くの方々に感謝
すると共に、せっかく御協力いただきながら十分意をつくすこと
ができず、せまい範囲に終ってしまったことを深くお詫びした
い。

この小論も和歌山市を出発点として、他日、紀北から紀南の地
域まで及ぶことができるよう、関係の方のより一層の御協力を得
て進めていきたいと願っている。

（和歌山信愛女子短期大学）